

児童・生徒の地域生活を充実するためのセミナーの開催

栃木県立足利中央養護学校

平成14年11月4日(月)、栃木県葛生町あくとプラザ小ホールにて全国知的障害養護学校PTA連合会子育て支援事業「休日・放課後における障害児の地域活動促進事業」の一環としてセミナーを実施した。県外21名(茨城13、埼玉5、千葉1、神奈川1、東京1)、県内22名、本校関係30名の計73名の知的障害養護学校保護者・教員の参加のもと、下記の内容で行われた。

1 セミナーの目的

完全学校週5日制の実施に伴い、休日や放課後における養護学校児童生徒の地域活動が課題となっている。そこで、児童生徒の地域生活を充実するために本校が取り組んできたPTA活動やボランティア養成やその活動を紹介し、併せて、障害児の地域活動を促進するための交流を図る機会とする。また、他校の取り組みを報告してもらうことで、この事業の近県への拡大を図る手がかりとする。

2 日程

9:00	受付
9:30~10:00	①活動場面の見学(人形劇の練習の様子)
10:00~10:10	移動
10:10~10:20	開会 ・あいさつ(足利中央養護学校長)
10:20~11:40	発表 ②PTA地区活動について (足利中央養護学校PTA副会長 小幡玲子) ③ボランティア養成及び活動について (登録ボランティア会長 田村只市) ④茨城県結城養護学校のPTA活動について (結城養護学校PTA副会長 山中伸祐)
11:40~11:50	休憩
11:50~12:30	⑤意見交換(質問・意見等)
12:30	閉会・解散

3 内容

①活動場面の参観

本校葛生地区の児童生徒(14人)と葛生町の朗読ボランティア「草笛」(6名)との人形劇発表の交流場面を見学してもらう。この活動は学校の地域生活学習として4年前から継続して行っている。今年度は、保護者も交えた地区活動として実施。この日の活動は、葛生小学校の「けやきっ子フェスティバル」での発表に向けての人形劇「赤

ずきん」の練習という設定をし、それを見てもらった。

②本校のPTA活動についての報告（PTA副会長より）

足利・佐野・安蘇（田沼・葛生）の3地区に分かれ、それぞれ地域交流活動を実施。地域交流活動は大きく3つに分けられる。

(1) PTA交流集会

本校保護者同士による学習会やレクリエーション等の活動。

(2) PTA地区活動

2市2町（足利、佐野、田沼、葛生）の各地区ごとの親子活動や他団体との交流活動。

(3) 地域行事参加

各地域の様々な行事に親子で参加する。

各地区の主な活動は次のとおりである。

・足利地区では、近隣自治体の方との田植えや稲刈り交流をしたり、バス旅行や地元の音楽集団を呼んでのコンサートを企画実施している。バス旅行は昨年から実施し、希望者が予想以上あり人数を制限するほどである。コンサートは市の吹奏楽団を呼んでのクリスマスコンサート等を行い、楽器の体験や曲に合わせて歌ったり踊ったりして楽しんでいる。

・佐野地区では、地域のイベントに参加し交流している。佐野市ふれあいフェスティバルやゆうあいスポーツレクリエーション大会、福祉いもほり等に参加し地域の人たちとの交流を深めている。ふれあいフェスティバルでは、グランドゴルフに参加したり、本校の高等部で製作している縫製品や木工製品、焼き物などの作業作品を展示即売をしたりした。

・安蘇地区では、心身障害児者スポーツ大会や社会福祉協議会主催のふれあいキャンプに参加したり、地元の高校の音楽部の演奏会に招待されたりした。ふれあいキャンプでは、活動の中で子どもたちが人形劇「赤ずきん」を披露した。キャンプには地域の小中学校の児童生徒も参加し、キャンプファイヤーやスイカ割りなどを楽しんだ。

そのほかに3地区合同で学校を利用して、夕涼み会（納涼祭）を実施し、児童生徒・保護者間での交流をねらった活動もしている。さらに今年度は学校が今まで地域生活学習として行ってきた地域での活動（クリスマス会やお別れ会等）を地区活動として行うこととなった。

このように本校では積極的なPTA地域交流活動が行われている。積極的に地域に関わっていくことをとおして子どもたちは有意義な余暇を過ごすことができる。地域での行事を企画することは大変であるが、イベントに参加したり地域に根付いた団体との交流は比較的容易にできることであり、こうした環境を積極的に利用したり作っていくことで子どもたちの休日を一層有意義なものにしていくことと思われる。また、子どもたちをよく知る教職員や登録ボランティアの方が参加することでより子どもたちの活動範囲が拡大することになる。

今後の課題として、こうした地域交流活動に参加しにくい状況にある子どもたちや保護者の方にどのように参加してもらうか、環境作りや内容などを工夫していく必要がある。

③ボランティア養成とボランティア登録者の活動について(登録ボランティア会長より)

ふれ愛ランドボランティア講座をはじめて6年目になる。講座の内容は、障害児を理解するための基礎知識の講話や地域の交流活動への参加、本校の文化祭への協力、そして講座の最後には、こうした実習を行ったことについての話し合いをしてもらったりしている。講座の期間は、8月から12月の月1回の計5回実施している。今年度の受講生は25名で、高校生が過半数を占めている。講座を受けた方には、本校のボランティアとして活動してもらえる方に登録していただき、その後活動してもらうことになる。昨年度の受講生を含め、今年度の登録者は49名(一般の方36名、高校生13名)である。受講生は年々減少傾向、そして高校生中心になってきている。学校ではこのへんを憂慮し、ボランティア講座運営委員会(2市2町・総合教育センター生涯学習関係者、ボランティアセンター関係者)を開き、ボランティア養成について指導・助言をいただいている。

活動としては主に3つに分けられる。

○地域活動への参加(PTA地域交流活動、個別の活動)

○本校の学習活動への参加(地域生活学習、学校行事〔運動会、文化祭、遠足、校外学習等〕)

○「ふれ愛ランド」主催事業(文化祭ゲームコーナーの運営等)

登録者による活動の事例

(1) ふれ愛ランドボランティア登録者によるイベント広場の運営

平成12年度より学校の文化祭「みどり祭」でボランティアのコーナーを設置。子どもたちが遊べるようにと、ペットボトルボーリングや缶積みゲーム、輪投げを用意した。昨年度は、さらにパネルシアターなども行った。こうした内容は子どもたちに大変好評であり、ボランティアによるイベント広場は年々その活動の幅を広げている。

(2) ふれ愛ランドボランティア登録者の親睦会

ボランティア講座も6年目になり、同じ年度の受講生であれば顔もわかるが、年度が違っていると知らない人が多いという声が強かったので、ボランティア同士で親睦を図る機会を設けることにした。親睦を図るには食べるのが一番ということで、学校をかりてバーベキューを行った。今までは顔ぐらいしかわからなかった人が多かったが、これによってさらに親しくなることができた。今後もボランティア同士のつながりを作る機会を設けていきたい。

今後の課題として、大きな行事への参加はかなりの数になっていいのだが、普段の日の行事への参加が少ないのが現状である。平日の参加は特定の子どもの関わりということで、ボランティアの方が遠慮がちな傾向にある。子どもたちのことを深く理解できるように学校にいつでも行ってお手伝いできるような体制をとっていただけるとありがたい。また、学校週5日制に伴いPTA活動に参加する機会が増えPTAの方との関わりも多くなっている。ボランティアの要請は学校を通して行われているがどうしても依頼が遅れがちになってしまう。ボランティアとPTA役員とが直接連絡できる体制作りが必要である。

④茨城県立結城養護学校のPTA活動について

本校では平成11年度から年次計画を立て、居住地交流事業に取り組んでいる。

平成11年度は学校で地区ごとに分かれ交流活動をし、教員による交流団体の募集や次年度の計画を立てた。

平成12年度は交流団体に学校へ来ていただき交流活動を実施。地域の公民館での交流活動も1回実施した。

平成13年度は学校での交流活動。公民館での交流活動の回数を2～3回に増やす。その内の1回を保護者の計画で実施し、平成14年度からの保護者主体の準備をした。

平成14年度は保護者主体の活動になり教職員はPTAの一員として協力する体制となった。

結城養護学校では、12市町村より児童生徒が通学しているが、8地区に分かれて交流活動をしている。結城地区では和太鼓の団体、下妻・関城地区ではフォークダンスクラブ、八千代・千代川・石下地区は手話の団体、猿島・境地区は太極拳の団体と交流をしている。今後は地域の各学校にも案内を配布し、小・中・高校生の参加を募る予定である。こうした事業について保護者の70%が賛成している。(11年度からアンケートをとった結果)

○主な賛成意見

- ・親子参加によって、顔合わせもできコミュニケーションのきっかけにもなる。
- ・地域の方と接することで互いに慣れ親しみ、理解していただき、子供たちも色々な経験を通して得る物がたくさんあると思う。
- ・買い物等、外出先でも声をかけてもらえ、親の知らないところでも子供の知り合いができて周りの人に少しずつでも認知してもらえ、社会が広がる気がする。
- ・子供たちにとって楽しいことがたくさんあるので、刺激があってよい。

○居住地交流事業の保護者のコメント(一例)

- ・結城地区では、結城市つむぎ太鼓の方々と和太鼓の演奏を行った。回数を重ねるごとに子どもたちのばちさばきもさまになってきている。つむぎ太鼓の方々も子どもたちの名前を覚えて、温かく指導してくれている。文化センターでの合同発表会も大変好評であった。
- ・三和地区では、童謡クラブの団体と交流している。グループごとに輪を作り、曲に合わせてお手玉を隣の人に渡し、曲が止まったときにお手玉を持っていた人が歌を歌うというゲームをやったりした。部屋中笑い声と熱気につつまれ、自然な交流を深めることができた。

この事業のねらいは、児童生徒・保護者と居住する市町村関係機構(教育委員会生涯学習課、社会福祉協議会等)や地域の人々(ボランティア等)との関係を深め、児童生徒が地域において、より生活しやすく、又、生き生きと社会参加・自立ができるようにする。

具体的な目標は、地域の人々とふれ合いながら、人とかかわる力や社会性・豊かな人間性を養い、自分の住んでいる地域の様々な活動を行い、有意義に過ごすことができるとともに、余暇活動・生涯学習の一助とする。また、保護者は地域の人々と関係を深め地域社会や行政に対して、積極的な働きかけができるようにする。そして、地区ごとの

地区PTAや親の会等の活動が活発になるように組織づくりをし、行政に働きかけていく。

これからの課題として、様々な交流団体・ボランティアグループの募集、そして地域の子どもたちとの交流があげられる。今のところ交流団体は大人の団体を中心に考えている。小・中学校との交流も視野には入れているが、条件を整えるにはまだ時間を要するのが現状である。地元の小学生との交流の形として、本校の子どもたちと公民館のサークル等が交流している所に、参加を呼びかけるということもある。

⑤意見交換

発表についての質問やその他聞きたいことについて意見交換をした。主な質問とその返答は次のとおりである。

・ボランティア運営委員会について、どんなメンバーでどんなことを話し合っているのか？

→メンバーは、2市2町の教育委員会の社会教育主事の方、県教育センターの生涯学習課の指導主事の方、足利市のボランティアコーディネーター、本校登録ボランティア会長、本校教員からなっている。話し合いの内容は、ボランティア養成について（講座の内容や受講生の募集の方法等）や本校のボランティアの活動の方向性について話し合っている。

・ボランティア講座を開始するにあたって苦労した点やいろいろな問題をどうやってクリアしたのか？（教員の協力要請や保護者の意識づけ等）

→その当時の校長の力も大きいですが、ちょうど文部省の研究指定を受け地域交流・ボランティア養成は特に問題もなく開始することができた。これから開始する場合は、ボランティアに対して教員や親の意識の高揚を図ってから始めた方がいいと思われる。

・対応の難しい子に対してボランティアの方が特定化していく傾向にあり、それによって重荷になってしまうのではないかとそれを防ぐにはボランティアのグループ化を図り、子供たちを多くの人に知ってもらう必要があるのではないかと？

→親と子、教員、ボランティアとでその都度十分話し合っていくことが大切。ボランティアの方でも介護等について勉強していく必要がある。

・PTA地域活動にはどうしたら参加者が増えるのか？

→活動内容によっては人気があり、人数制限するものもある。少ないときには理事（地区ごとの）からどんどん働きかけている。教員やボランティアの協力があると参加しやすくなる。

・12市町村を8つの地区に分けているが、そのギャップはないのか？PTAの役員委員会の多いが、役員を決めるときに特に問題もなく決まるのか？（結城養護学校への質問）

→市と郡単位で分けているがやはり自治体での違いがあるので、将来は足利中央養護学校のように、それぞれの市町村に分かれた活動ができればいいと思う。

役員決定については特に問題はない。委員会の方も参加率がよく、みなさん積極的にやっけていただいている。役員の方は、みんなが同じ負担を請け負うという意識

を持っているようで、特定の方が何年も続けてやるということはないようだ。

- ・PTA地域活動の費用はどうしているのか？卒業生は活動に参加しているのか？
→PTAバザーの収益を地区ごとに分配している。また、PTA会費の中から予算を充てている。卒業生を地区の行事（クリスマス会、お楽しみ会等）に招待したり、同窓会の行事の中で在校生（高等部生）と交流したりしている。

意見交換に1時間ほどの時間をとっていたが、上記の質問以外にも多くの質問・意見をいただき、時間が足りないほどであった。

4 地域活動の状況及び今後の展望

①本県での状況

本校では、平成9・10年度の交流教育地域推進事業の研究指定を機に、「開かれた学校と地域に生きる子どもたち」というテーマを掲げ、交流教育の範囲を学校周辺から子どもたちの居住地に広げるとともに、PTA地区活動を地域の方々とともに進める形態に発展させてきた。さらに、ボランティアスクールを開講し、できるだけ多くの方々に、知的障害児の現在及び将来に渡ってのよき理解者、支援者になっていただくための取り組みも続けている。本県では、本校以外でも県北の那須養護学校が、平成11・12年度「心を開き、地域を拓く、交流教育」をテーマに地域交流教育推進事業を進めてきた。その他にも、国分寺養護学校で「地域の教育力を活用した教育活動の取り組み～一人一人がいきいきと取り組む姿を求めて～」というテーマの基、実践活動に取り組んでいる。また、他の学校でも居住地交流に取り組もうと考えだし、本校の地域生活学習の様子を見学したり、取り組みについての話を聞きに来たりしている。

②他県への波及

本校が取り組んできた居住地交流について、平成12年度に山形県の鶴岡養護学校と茨城県の結城養護学校に本校の担当教員が出向き「居住地における交流実践について」という演題で講演を行った。結城養護学校では、セミナーでの発表であったように、その後着実に地域活動が根付き、今年度は学校主体から保護者主体の活動になってきている。

③今後の地域活動の展望

本校や結城養護学校でもそうであったように、まずは学校が主体的に取り組んでいく必要がある。保護者や地域と協力していき、活動が軌道に乗れば保護者主体のものに移行していくのも可能である。学校は、家庭や地域の人々との連携の核となって実践を積み重ね、それを地域にアピールし、知的障害児に対するよりよい地域の在り方を求めて行かねばならない。

そうした意味でも、地域活動は親任せ、ボランティア任せでなく、教員もボランティアとして子どもたちの余暇活動を支援していかねばならない。こうした意識の必要性を他の学校の教員・保護者に対して植え付けていけるよう働きかけていきたい。今回のこのセミナーは、その絶好の機会であったと言えよう。次回のセミナーでは、参加した方々がこれなら自分の学校でも取り組める、というような内容にしていきたい。